

⑫ 書状 (鉄漿^{かねつけ}附祝儀として御樽肴・行器^{ほかい}1対寿慶)

年不詳 (近世カ)

江戸時代における女子の成人儀礼の一つに「鉄漿^{かねつけ}付」がありました。もとは初潮をむかえる時期に、成人女性の象徴であった鉄漿^{おはぐろ}を付け、成人を祝う儀礼でしたが、次第に名称はそのままに、婚礼の際の儀礼に転化していったとされています。この史料には、無事に鉄漿付が済んだことを祝うとともに、祝いの進物を贈った旨が記されています。

上岡高行氏収集文書 P08212 No.337

(甘楽郡南牧村砥沢)

一
為
御樽肴
行器
祝儀
御慶
御進物
御慶
御進物

井田新右様

【12】 書状

(鉄漿附祝儀として御樽肴・行器1対寿慶)

〔釈文〕

尚々

一筆啓上仕候、然者、今日

鉄漿附御祝儀、無レ滞

被レ成_二御整_一、目出度奉レ存候、

依レ之御樽肴_并行器壹対

右寿慶之祝迄、進_レ覽之_一

仕候間、御臺盤可レ被_レ下候、恐惶

謹言

二月廿二日

下瀧村

井田新右衛門様

〔読み下し文〕

尚々

一筆啓上仕り候、然_{しか}らば今日

鉄漿_{かねつ}附_{とどこお}け御祝儀、滞_{とどこお}り無く

御整い成され、目出度く存じ奉り候、

之れに依り御樽肴_{ほかい}并びに行器壹対

右寿慶の祝い迄、之_{しんらん}を進_{しんらん}覽

仕り候間、御臺盤_{だいばん}下さるべく候、恐惶_{きようこう}

謹言_{きんげん}

二月廿二日

下瀧村

井田新右衛門様